

## 2025 フクシマ連帯キャラバン報告書

全港湾東北地方八戸通運支部 斉藤 翔

茨城行動に参加をさせてもらいました。茨城行動では、各自治体を周り要請書や質疑応答などしました。その中でも印象的なのは各自治体の避難計画、ロードマップの実効性や各市民への対応の温度差をかなり感じました。

避難のシミュレーションなど、ひたち市役所は23地区に適したロードマップを作成し休日には避難の練習をしていることや、東海村では県立高校に実際に原発事故があった際の設備などの計画あること、ひたちなか市では避難の際の受け入れ体制を違う県と連携して協定を結び避難先の拡充をしている。 ですが、まだまだ100パーセントとは言えず一つ一つ確認してみればあまりにも実効性がなくただ表記していることが多いことや、避難しても避難先の環境や行動が分からない状況が多い、実効性があるロードマップの作成は実際厳しんじゃないかと言う自治体もありました。そんな状況で原発をどんどん動かして行こうはあまりにも的外れではないのかとおもいました。絶対に廃炉にすべきだと思いました。

青森県にも原子力発電所、核再処理工場、核中間貯蔵施設などあります。その中で自分が住んでいる地域も避難の対象ですが避難計画、ロードマップなど見たこと聞いた事ありません。そして原発事故から14年未だに封鎖されている地域、封鎖解除になっても戻って来る人の数はかなり少ないです。これが原発事故の恐ろしさだと思います。

この活動を通して原発事故の恐ろしさそして、福島県、茨城県だけではなく全国各地の問題だと思っていますので風化しない為にも原発ゼロを目指して頑張っていきたいです。